

OKAYAMA SHINKIN

202

DISCLOSURE

上半期 REPORT

2022年4月1日~2022年9月30日





地域のみなさまと共に、 さまざまな活動に取り組んでおります。

2022年度上半期の地域貢献活動&トピックス

西奉還町支店リニューアルオープン







2022年4月18日に西奉還町支店をリニューアルオープンいたしました。1階営業窓口と執務室を区切るパーテーションには、地元の奉還町商店街のイラストを描き、地域の皆様が親しみやすいデザインとしました。2階は資産運用などのコンサルティングルームのほか、文化活動などにお使いいただけるよう、開放した会議室やギャラリースペースを設けており、地域のコミュニティーセンターとして多くの方々にご利用いただきたいと考えております。

第27回お取引先新人社員研修会





お取引先事業者様の人材育成のお力になるべく、「第27回お取引先新入 社員研修会」を4月21日と22日の2日間で開催し、28社、57名の新入社員の 方々にご参加いただきました。「ビジネスマナー」を中心に当金庫の職員等が 講師となり研修をおこない、ご参加いただいたお取引先事業者様からも高い 評価をいただいております。

「信用金庫の日」(献血活動・清掃活動)







6月15日の「信用金庫の日」にちなみ、地域貢献活動として、献血活動 および清掃活動をおこないました。献血活動は、職員85名が採血を実施、 また、清掃活動は同352名が、所属する営業部店周辺の清掃活動を実施 いたしました。

エリアサポート助成金贈呈式



2021年度「おかやましんきん地域活性化支援制度"エリアサポート"」の助成金贈呈式を新型コロナウイルス感染症拡大のため、2022年4月に延期し開催いたしました。2021年度は、58社(団体)からご応募いただき、所定の選考・審査を通過された10社(団体)に対して助成金を贈呈いたしました。

ファジアーノ岡山「おかやま信金デー」 チーム強化資金寄贈



2021年12月から3か月間取り扱いました「おかやましんきんファジアーノ岡山応援定期2022SEASON」の預入総額が、一定の金額に達したことから、9月17日開催のファジアーノ岡山ホームゲーム「おかやま信金デー」において、ファジアーノ岡山にチーム強化資金として300万円を寄贈いたしました。

お客様向け「資産運用セミナー」 「相続・遺言信託・事業承継等相談会」





お客様のライフステージに合った情報を提供し、「生涯価値の向上」をお手伝いする目的で、「資産運用セミナー」を開催いたしました。2022年度上半期におきましては、対面で2回、オンラインで1回の計3回開催し、対面では14名のお客様にご参加いただきました。また、6月13日に妹尾支店、6月14日に当新田支店、6月16日に西奉還町支店で相続・遺言信託・事業承継等相談会を開催し14名のお客様からご相談をいただきました。

児童養護施設に「木下大サーカス岡山公演」の 招待券を贈呈





4年ぶりに開催されました「木下大サーカス岡山公演」の招待券を社会福祉 法人南野育成園様に贈呈いたしました。

SDGs寄付型私募債の引受けに伴う寄贈





2022年度上半期は、私募債を発行された8社様と当金庫の連名にて、小学校や中学校、高校などの教育機関に体育用品、パソコンなどを寄贈いたしました。[SDGs寄付型私募債]は、SDGs(国連が提唱する持続可能な開発目標)の趣旨に賛同いただき、貢献をしたいという優良企業様が発行するもので、手数料の一部を、SDGsの取組みをおこなう団体・企業様へ寄付するものであります。

SDGsに関する取組み(水質浄化)





当金庫では若手経営者の会おかやまPRODUCEと協働し、地元大学、岡山県、岡山市などを加え産学官金連携でSDGsに関する取組みを進めております。現在は、岡山県の水質浄化を目標に、おかやまPRODUCE会員企業の技術を集結して、浄化装置を開発し、7月1日から倉敷市の貯水池で実証実験を進めております。水質の調査には倉敷芸術科学大学の協力を得てデータを収集しており、一定の成果が出た後には、岡山市内の名所等の池に設置を進める予定であります。

第16回岡山県しんきん合同ビジネス交流会





第16回岡山県しんきん合同ビジネス交流会をコンベックス岡山で開催いたしました。会場ではコロナ禍に対応した新たなビジネスモデルをPRする「ニューノーマルゾーン」や、県外企業ならびに百貨店などバイヤーとのリモート商談を実現した「リモート商談ゾーン」「バイヤーコーナーリモート商談エリア」を設けるなど、ここ2年で急激に変化した社会情勢を反映した新たなスタイルの商談会となりました。なお、当日は2,500名の方にご来場いただき、750件を超える商談がおこなわれました。

「おかやまPRODUCE」結成10周年特別講演



おかやまPRODUCE結成10周年の特別講演として、当金庫の桑田理事長が、「おかプロと"ともに"」をテーマに、自身の他業種での経営経験と金融業の共通点・相違点にふれながら、これまでの外部環境の変化と当金庫の取り組みなどを紹介しました。

損益の状況(単体)

業 務 純 益 735百万円

(前年同期比101百万円減少)



実質業務純益 735百万円

(前年同期比101百万円減少)



コア業務純益 687百万円

(前年同期比55百万円増加)



経常利益	益
727百万	円

(前年同期比175百万円減少)



608百万円

(前年同期比75百万円減少)

当期純利益



(単位:百万円)

		2021年9月期	2022年9月期
業 務 純 益		837	735
	実質業務純益	837	735
	コア業務純益	631	687
	経 常 利 益	902	727
	当期純利益	684	608

(単位:百万円)

- ※ 当金庫は、コア業務純益に「投資信託解約損益」を含めて いないため、「コア業務純益(投資信託解約損益を除く。)」は 「コア業務純益」と同額となります。
- ※「コア業務純益」とは、「業務純益」から一般貸倒引当金繰入額や国債等の債券売却損益等の影響を除いた、信用金庫の基本となる事業活動から得られる利益を表す指標です。

自己資本比率と自己資本の額(単体・国内基準)

項目	2022年3月期 2022年9月期		
(自己資本)			
普通出資又は非累積的永久優先 出資に係る会員勘定の額	29,337	29,945	
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,777	1,776	
うち、利 益 剰 余 金 の 額	27,613	28,168	
うち、外 部 流 出 予 定 額 (△)	53	_	
コア資本に係る基礎項目の額に 算入される引当金の合計額	1,014	970	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,014	970	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の 差額の45%に相当する額のうち、 コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	157	157	
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	30,510	31,073	
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツ に 係 る も の を 除 く 。) の 額 の 合 計 額	43	42	
前 払 年 金 費 用 の 額	397	388	
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	440	431	
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	30,069	30,641	
(リスク・アセット等)			
信用リスク・アセットの額の合計額	271,009	283,251	
うち、経過措置によりリスク・アセットの 額 に 算 入 さ れ る 額 の 合 計 額	△361	1,753	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△2,115	_	
うち、上記以外に該当するものの額	1,753	1,753	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	11,453	11,453	
リスク・アセット等の額の合計額(二)	282,463	294,705	
(自己資本比率)			
単体自己資本比率((ハ)/(ニ))	10.64%	10.39%	



自己資本比率は、金融機関の健全性を表す指標のひとつで、 国内のみで業務をおこなう金融機関は4.00%以上が必要と されております。

当金庫の2022年9月末の自己資本比率は10.39%であり、 「経営体質が健全で問題がない金融機関」に該当します。

(注)「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。

預金積金・貸出金等の状況(単体)

》 預金積金残高/うち個人預金

地域のお客様の生涯価値の向上に貢献できるよう、新商品の開発やライフステージに合った提案をはじめとした金融サービスの一層の充実を図り、今後も皆様から信頼される業務運営をおこなってまいります。



>> 預かり資産残高

多彩なニーズにお応えするため、市場・経済動向などに 関する情報提供をおこなうとともに資産運用相談業務に 積極的に取り組んでおります。

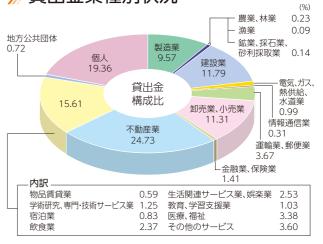


》貸出金残高/うち事業性貸出金

協同組織金融機関の恒久的な使命として、会員事業者様の事業価値の向上に資するため、事業性融資推進に取り組みました。今後も、地域密着型金融の推進こそが、当金庫の存在意義であるという認識のもと、付加価値営業を中心とする「バリューアップ型金融モデル」を継続的に実践してまいります。



》貸出金業種別状況



(H)	 	7)

			(単位:白万円)
	貸出金残高		貸出金残高
製造業	23,982	物品賃貸業	1,495
農業、林業	589	学術研究、専門・技術サービス業	3,147
漁業	237	宿泊業	2,093
鉱業、採石業、砂利採取業	364	飲食業	5,936
建設業	29,536	生活関連サービス業、娯楽業	6,344
電気、ガス、熱供給、水道業	2,482	教育、学習支援業	2,581
情報通信業	791	医療、福祉	8,485
運輸業、郵便業	9,204	その他のサービス	9,019
卸売業、小売業	28,326	小計	200,122
金融業、保険業	3,554	地方公共団体	1,810
不動産業	61,951	個人	48,505
		合計	250,438

(注)業種区分は、日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

「経営者保証に関するガイドライン」への取組み

当金庫では、「経営者保証に関するガイドライン」の趣旨や内容を 十分に踏まえ、お客様からお借入れや保証債務整理の相談を受け た際に真摯に対応するための態勢を整備しています。また、経営者 保証の必要性については、お客様との丁寧な対話により、法人と経 営者の関係性や財務状況等の状況を把握し、同ガイドラインの記載 内容を踏まえて十分に検討するなど、適切な対応に努めています。

	2022年度上半期
新規に無保証で融資した件数	781件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	34.02%
保証契約を解除した件数	48件
経営者保証に関するガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数(当金庫をメイン金融機関として実施したものに限る)	0件

金融再生法に基づく開示債権の状況

※金融再生法開示債権および信用金庫法開示債権の保全・引当状況

		(単位:百万円)
区 分	2022年3月末	2022年9月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,167	2,157
危険債権	10,859	11,332
要管理債権	875	688
三月以上延滞債権	_	_
貸出条件緩和債権	875	688
小計(A)	13,902	14,179
保全額(B)	12,599	12,809
個別貸倒引当金(C)	1,967	2,006
一般貸倒引当金(D)	23	27
担保·保証等(E)	10,607	10,776
保全率(B)/(A)	90.62%	90.34%
引当率((C)+(D))/((A)-(E))	60.43%	59.76%
正常債権(F)	244,143	242,467
総与信残高(A)+(F)	258,045	256,646

- (注)1.「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申
- 立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。 2.「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が 悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」に該当しない債権です。
- 3. 「要管理債権」とは、信用金庫法上の「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と「貸出条件緩和
- 債権」に該当する貸出金の合計額です。 4.「三月以上延滞債権」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延し ている貸出金で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」および「危険債権」に該当しない
- 5.「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の 支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」および「三月以上延滞債権」に該当しな い貸出金です。
- い気口がとう。 (で)は、(質性)を引きる。(で)は、(質性対照表上の個別質倒引当金の額のうち、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」および「危険債権」の債権額に対して個別に引当計上した額の合計額です。 7. [一般貸倒引当金] (D) には、貸借対照表上の一般貸倒引当金の額のうち、要管理債権の債権
- 額に対して引当てた額を記載しております。 8.「担保・保証等」(E)は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額および保証による
- 回収が可能と認められる額の合計額です。 9.「正常債権」(F)とは、債務者の財政状態および経営成績に特に問題がない債権であり、「破産 更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」および「要管理債権」以外の債権です。
- 10.「破産更生債権及びこれらに準する債権」、危険債権」および、旧・農権に対対象となる債権 は、貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還および利息の支払の全部または一部 について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息および仮払金 ならびに債務保証見返の各勘定に計上されるものならびに注記されている有価証券の貸付 けを行っている場合のその有価証券(使用貸借または賃貸借契約によるものに限る。)です。

》不良債権比率

(単位:%)

2022年3月末	2022年9月末
5.38	5.52

有価証券の時価情報

2022年9月末の評価差額・含み損益は、世界的な金利上昇やマーケット指標の悪化により、前期末比約22億円の悪化と なりました。

					(単位:百万円)	
	2022年3月末					
		0共/冊	≕≔辛痴			
		時価が評価差額が一つ方益				
	その他有価証券	216,952	-148	1,860	2,009	
	株式	544	24	42	17	
	債券	166,580	-1,203	492	1,696	
	その他	49,828	1,030	1,325	294	
	外国証券	44,475	81	362	281	

				(単位:百万円)	
	2022年3月末				
	貸借対照 表計上額 含み損益 うち益 うち		貸借対照	借対照 金刀提升	
			うち益	うち損	
満期保有目的の債券	869	47	47	_	
子会社・子法人等株式 および関連法人等株式	10	_	_	_	

					(単位:百万円)		
2022年9月末							
		時価 評価差額 うち益		D+ /TE = TE /TE > + 6E	n+/TT :		
				うち益	うち損		
-	その他有価証券	231,967	-2,426	1,432	3,859		
	株式	533	13	35	21		
	債券	179,548	-2,977	284	3,261		
	その他	51,885	537	1,113	576		
	外国証券	46,652	-247	286	533		

				(単位:百万円)
	2022年9月末			
	貸借対照金元提業			
	表計上額	表計上額含み損益	うち益	うち損
満期保有目的の債券	807	41	41	_
子会社・子法人等株式 および関連法人等株式	10	_	-	_

(注) 2022年9月末の「評価差額」および「含み損益」は2022年9月時点の貸借対照表 計上額(償却原価法適用後)と時価との差額を計上しております。

自己資本の充実の状況等(単体)

》自己資本の充実度に関する事項

(単位:百万円)

	2022年3月末		2022年9月末	
	リスク・アセット等	所要自己資本の額	リスク・アセット等	所要自己資本の額
イ.信用リスク	271,009	10,840	283,251	11,330
(1) 標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	260,210	10,408	268,658	10,746
①外国の中央政府及び中央銀行向け	320	12	270	10
②外国の中央政府等以外の公共部門向け	1,089	43	760	30
③我が国の政府関係機関向け	281	11	343	13
④金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	25,545	1,021	21,707	868
⑤法人等向け	79,449	3,177	81,932	3,277
⑥中小企業等向け及び個人向け	47,150	1,886	46,897	1,875
⑦抵当権付住宅ローン	7,338	293	7,291	291
⑧不動産取得等事業向け	63,824	2,552	64,635	2,585
⑨三月以上延滞等	272	10	599	23
⑩取立未済手形	25	1	29	1
⑪信用保証協会等による保証付	4,196	167	4,090	163
⑫出資等	1,425	57	1,418	56
③上記以外	29,289	1,171	38,681	1,547
他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通出資等及びその他 外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	16,048	641	25,803	1,032
信用金庫連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る 調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	2,390	95	2,390	95
上記以外のエクスポージャー	10,851	434	10,487	419
(2)証券化エクスポージャー	11,160	446	12,839	513
証券化(非STC要件適用分)	11,160	446	12,839	513
(3)リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	_	_	_	_
(4)経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	1,753	70	1,753	70
(5)他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△2,115	△84	_	_
(6) CVAリスク	_	_	_	_
(7)中央清算機関関連エクスポージャー	_	_	_	_
ロ. オペレーショナル・リスク	11,453	458	11,453	458
粗利益配分手法	11,453	458	11,453	458
ハ. 単体総所要自己資本額(イ+ロ)		11,298		11,788

- (注) 1. 「所要自己資本の額」は、「リスク・アセット等×4%」で算出しております。
 - 2. 「エクスポージャー」とは、資産(派生商品取引によるものを除く)ならびにオフ・バランス取引および派生商品取引の与信相当額等のことです。
 - 3. 「三月以上延滞等」とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャーおよび①から⑤においてリスク・ウェイト が150%になったエクスポージャーのことです。
 - 4. オペレーショナル・リスクは、粗利益配分手法を採用しております。

>> 銀行勘定における金利リスクに関する事項

(単位:百万円)

IRRE	IRRBB1:金利リスク									
		1		/\	Ξ					
項番		⊿EVE		ΔNII						
		2022年9月末	2022年3月末	2022年9月末	2022年3月末					
1	上方パラレルシフト	4,896	4,772	236	644					
2	下方パラレルシフト	_	_	1,068	1,005					
3	スティープ 化	5,013	4,988							
4	フラット化									
5	短期金利上昇									
6	短期金利低下									
7	最 大 値	5,013	4,988	1,068	1,005					
$\overline{}$		ホ		^						
		2022年9月末		2022年3月末						
8	自己資本の額	30,0	641	30,069						

当金庫の2022年9月期の⊿EVEの 最大値が自己資本の額に占める割合 は、16.362%であり、監督上の基準 値とされている20.000%以内で金 利リスク管理上、問題のない水準で あると認識しております。

(注)「∠EVE」とは、金利ショックに対する経済価値の 減少額、「ANII」とは、金利ショックに対する金利 収益の減少額のことです。



2020~2022年度中期経営計画

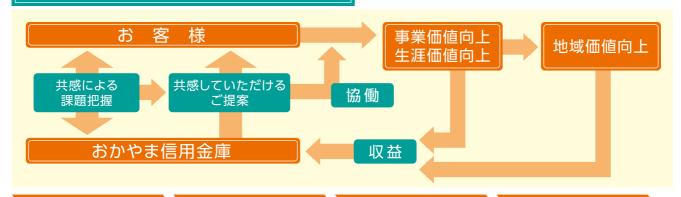
「おかやましんきんEmpathyプラン」

~Value Upの定着と深化に向けて~

当金庫は、2020年度からお客様との「共感(Empathy)」を中軸とした新中期経営計画「おかやましんきんEmpathyプラン」をスタートさせました。

本計画では、お客様の立場に立ってお客様に「共感」することで課題を把握し、お客様に「共感」していただけるご提案によってお客様の事業価値・生涯価値の向上を目指し、更にはそれを地域価値の向上に繋げ、地域の皆様からの「共感」を得ることを目指してまいります。

本中期経営計画での取組み



お客様との共感による課題把握

お客様に共感して いただけるご提案 お客様の事業価値 ・生涯価値向上 「おかやま」の 地域価値向上

当金庫は、お客様の事業価値・生涯価値の向上、地域価値の向上の一部を収益として享受することにより、経営基盤を一層確固たるものとし、お客様の課題解決に向けた取組みを深化させてまいります。

主 要 施 策

■お客様・地域に「共感」し、「共感」していただける取組みの推進

- ➤ 事業先のお客様のビジョンの実現に向けた課題把握活動の推進
- ➤ 個人のお客様の夢の実現に向けた適切な資産・負債構成、ライフプラン提案の推進
- ➤ 本部業務の見直し ~営業店に「共感」し、営業店の課題に寄り添う本部~
- ➤ SDGsに向けた取組みの推進

■経営資源の効率的な活用

- ➤ ゼロベースからの業務効率化
 - ~業務のスクラップアンドビルドの 推進・業務属人化の排除~
- ➤ コストマネジメントの強化
- ➤ 店舗網・各営業店の営業エリアの見直し
- ➤ リスクアペタイト・フレームワーク(RAF)の導入

■「共感力」「提案力」の高い人財の育成

- ▶ お客様の様々な課題に関する知識を備えた 人材の育成・活用
- → 将来を見据えた人材ポートフォリオの構築、 人材採用
- ➤ 職員に求められる能力の可視化





